

ハウジング&リフォームあいち2007に出展しました!

～来て!見て!学んで!住まいの情報広場～

開催趣旨

最近の住まいをとりまく状況は、少子・超高齢社会の到来、ライフスタイルや家族形態の多様化、地球規模での環境問題の深刻化など大きく変化しています。その中で、住民の住宅に対する関心も高まり、防犯や耐震化などをはじめとするより安全で安心できる住まい、より快適で個性豊かなライフスタイル、人や環境に優しく健康的な生活など、要望が多様化・高度化してきています。

情報化社会といわれる中で、実際に自分の目で見て、触れて、確かめながら住まいづくりや住まい選びにあたる必要があるという考えのもと、『ハウジング&リフォームあいち 2007』は、住民が直接見て、触れることのできる総合的な住宅情報の提供やそれぞれのニーズに対応する情報を提供するための相談の場として企画されました。(「ハウジング&リフォームあいち 2007HP」より抜粋)

日時：平成 19 年 3 月 16 日(金)・17 日(土)・18 日(日) 午前 10 時～午後 5 時

会場：吹上ホール(名古屋市中企業振興会館)

本法人もこの趣旨に賛同し、**相談コーナーとセミナー**を担当しました。(次ページ記事)

★出展ブース あ・れ・こ・れ★

・出典企業ブース

快適な住まいづくりを提案する企業が、多数出展していました。

・住まいの何でも相談コーナー

住まいに関する悩みや質問に対し、専門家が答えていました。

・住まいに関するセミナー

住まいに関するあらゆる内容のセミナーが開催されていました。この中で、本法人の協力機関でもある「NPO法人ひだまりねっと」さんも、セミナーを寸劇形式で開催していました。(高齢者リフォーム寸劇「困ったわ…誰に相談したらいいの?」)

・イベント広場

日曜大工を体験するコーナーやそば打ち体験など、多数のイベントが行われていました。

・シンポジウム

「暮らしの安全・安心リフォーム」をテーマにした取組みの活動報告が行われていました。この中で、「住宅ストック有効活用推進モデル事業報告会」(主催：愛知県)では、本法人の関係団体が活動報告をしていました。

関係報告団体

- ・やさしい住まいの支援ネット
- ・NPO法人住まいのホームドクター/設計者の会
- ・NPO法人ひだまりねっと
- ・メティ・ケア住環境研究会など



1 相談コーナーを担当しました!!

「高齢者リフォーム」に関する相談を担当し、3日間で 21 件の相談がありました。相談内容は、段差解消やトイレの改修などバリアフリー化に関するものが多く、またどこへ施工を頼んだらよいか迷うなど、リフォーム詐欺などの世相の中で、信頼できる業者を求め高齢者が多かったのも特徴でした。本法人として、こうした相談活動を日常化することが求められています。



2 セミナーを開催しました!!

高齢者や障害のある人のためのリフォームに関するセミナーを、2つ開催しました。

「いきいき住宅リフォームのすすめ」

講師：高阪謙次(本法人理事長)

セミナースペース A

3月18日(日)13:00~13:45

高齢者にとって、「住み慣れた地域にずっと住み続けること」と「安全で快適な住まいに住み続けること」は、高齢期をいきいきと生活するための大切な支えです。しかし、その支えの根幹であり、私たちが慣れ親しんできた日本家屋は、足腰が弱ったり、車いすを使ったりすることの多くなる高齢期には、不都合な場面が随所に現れてきます。それが、高齢者の家庭内事故死の多さの大きな要因になっているのです。

高齢者が住み慣れた地域で、いきいきと暮らし続けるためには、安心・快適な住まいづくりを欠かすことができません。そのために、必要不可欠となるのが「いきいき住宅リフォーム」なのです。



「意外と知らない!?」

高齢者にやさしい手すりの取付け方

講師：佐橋道広(本法人理事)

セミナースペース A

3月18日(日)14:00~14:45

手すりは、いきいき住宅リフォームの基本であり、誰にでも簡単に取付けることができます。しかし、1本の手すりが安全な歩行や動作を助け、ADL(日常生活動作)やQOL(生活の質)の向上に大きな役割を担うこともあれば、身体状況の把握・手すりの選択・取付け位置・取付け方法などを間違えてしまうと、邪魔になったり、かえって危険になったりすることもあります。手すりは、結構奥深いものなのです。

手すりの取付け位置を決める際のポイントとして、ADL(日常生活動作)を確認すること、動線は短縮・単純化すること、下地強度を確認すること、の3点を忘れないようにしましょう。

